

No.233

林業ぐんま



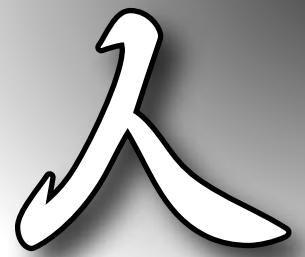
秋

2025

「林業ぐんま」はホームページでもご覧になれます
<https://gun-fukyu.jimdofree.com/>

群馬県林業改良普及協会

地域を担う



鳥川流域森林組合

江口 悟さん

一趣味

園芸、DIY、狩猟

二 今後の抱負

FWを修了し、基礎的な技術を学ばせて頂きましたが、これに満足せずに好奇心を持ち続け新しい知識を積極的に取り入れながら楽しく作業できる様に心がけていきたいと思っています。



有限会社 利根緑化

堀口 英二さん

一趣味

トレーニング、神輿

二 今後の抱負

安全に怪我なく己の技術を磨いていきたいと思っています。

目次

地域を担う人.....	1
江口 悟さん 堀口 英二さん	
普及コーナー.....	2
・群馬県UAV等活用研修について	
・令和7年度群馬県林業講師養成研修の 受講生募集の案内	
林政情報.....	4
・野生きのこの等の安全性確認について	
・第七十八回群馬県植樹祭の開催について	
各地のたより.....	6
(渋川) 渋川森林事務所管内における ナラ枯れ被害について	
(西部) ほだ場診断の開催	
(藤岡) 消防と連携した林業現場安全点検	
(富岡) 第四三回親と子の 木工広場の開催(富岡地区)	
(吾妻) 親と子の木工広場の開催 (吾妻地区)	
(利根沼田) 高校生向け 『チェーンソー技術体験会』を実施 (桐生) 令和7年度関東・山梨ブロック 林業グループコンクール	
森の談話室.....	12
地域木材産業を担う若手経営者 榛名木材工業株式会社 代表取締役 萩原 佑比さん	
林業試験場から.....	13
ムキタケ現地調査	
トピックス.....	14
・ぐんま『夏』の木育広場を開催	

普及コーナー

群馬県 UAV 等 活用研修について

近年、UAV（ドローン）やGNSS（全球測位衛星システム）を活用した測量技術は、森林管理の新たな手法として注目されており、その重要性は今後ますます高まることが予想されています。

こうした流れを受け、令和2年3月には「造林補助事業竣工検査内規例」が改正され、令和7年3月には、UAVやGNSS機器、GISソフト等を活用した補助金申請・検査の方法や基準を整理した「森林整備事業における補助金のデジタル申請・検査ガイドライン」が整備されました。

これにより、UAVで撮影した画像から作成されたオルソ画像やGNSS測量などのデジタル技術を、補助金申請や検査業務に活用



群馬県UAV等活用研修

UAV基礎コース・GNSS活用コース

この研修は、UAVやGNSSの操作や、取得したデジタルデータを活用できる人材を育成するとともに、造林補助補助事業の申請・検査等へのデジタル技術の普及促進を目的とし開催するものです。

研修のPoint

- UAV、GNSSの操作を学ぶ（初心者歓迎、初心者歓迎）
- オルソ画像の作成（GNSSデータを活用した測量）
- 補助金申請書の作成（GNSSデータを活用した測量）
- 補助金申請書の作成（GNSSデータを活用した測量）

UAV基礎コース
定員：3団体（6名）
※1団体あたり2名

GNSS活用コース
定員：3団体（3名）

主催：群馬県（林業振興課）

することが可能となっています。

しかしながら、本県では、これらのデジタル機器を扱える技術者が不足しており、森林整備事業におけるデジタル申請の事例は依然として少ないのが現状です。

このような背景を踏まえ、群馬県では林業経営体の技術者を対象に、UAVおよび関連機器の操作や取得したデジタルデータの利活用が可能な人材の育成を目的とした「群馬県UAV等活用研修」を開催いたします。

今回は、新たにGNSSを活用するコースを新設し、「UAV基礎コース」と「GNSS活用コース」の2つの研修メニューを実施します。

本研修では、UAVやGNSS機器に関する基礎的な講義や操作訓練に加え、林業現場における実践的な研修を通じて、参加者のスキル定着と向上を図ります。また、研修の成

研修メニュー		
コース	UAV基礎	GNSS活用
集合研修	30時間（4日間） （9/20、10/1、10/7、10/8） ・UAV基本操作 ・オルソ作成 ・補助金申請等	6時間（1日間） （9/25） ・GNSS基本操作 ・補助金申請等
実地研修	5か月間 （R7.10～R8.2）	5か月間 （R7.10～R8.2）
中間発表会	3時間（0、5日間） （R7.10下旬を予定）	3時間（0、5日間） （R7.10下旬を予定）
フォローアップ 現地研修	実地研修期間中 6時間（1～2日間）	実地研修期間中 6時間（1～2日間）
最終発表会	3時間（0、5日間） （R8.2上旬を予定）	3時間（0、5日間） （R8.2上旬を予定）

果を広く共有するため、研修状況を取りまとめた発表会の開催も予定しています。

森林整備事業の効率化とデジタル技術の普及促進に向けて、ぜひご参加ください。

（林業振興課）



普及コーナー



昨年度の様子

令和7年度 群馬県林業講師養成研修の受講生募集の案内

林業振興課では、林業の現場において人材育成に携わる指導者を対象に、指導に必要な知識や技術を学び、育成に対する意識を高めることを通じて、将来の林業を担う人材の育成と定着を図ることを目的とした「群馬県林業講師養成研修」を開催します。日程は、令和7年11月10日（月）、11日（火）、25日（火）です。申込み期限は10月14日（火）。

昨年度に引き続き、本研修は、指導者の指導力向上を目的とし、OJTの基本、ティーチング、コーチング、わかりやすい説明など、指導を行う上で必要となるスキルを養成できる内容となっています。さらに、本年度から、研修の効果を高めるために受講生の状況を把握する事前アンケートを実施します。研修の初日には、林業やOJT等について基本的な知識及び人材育成計画の立て方を習得します。習得した内容については、演習を行うことで、定着を図ります。

2日目には、管理者4責任などの業務指導の基本を習得した後、演習を実施します。そして、指導者としての伝え方、話し方についてトレーニングを含めた演習を行います。

最終日には、3日間の研修で習得した内容について総合的な演習と振り返りを実施します。各受講生が本研修内で取り組んだことを発表した後、スキルマップを共有、そして他の受講生と意見交換を行う予定です。

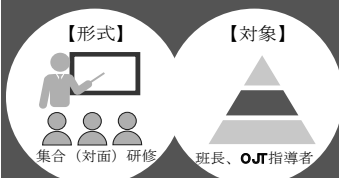
研修では、講義のみでなく、グループワークや発表を通じて、受講生間の意見交換及び交流を促進します。そのため、新たな知識を得られるだけでなく、発表等の普段は経験できないことにも挑戦する機会を得ることができます。

ぜひ、参加してみたいかがでしょう。

令和7年度 群馬県林業講師養成研修

受講生募集中
申込期限 10月14日

募集人数
10名



目 的

本研修は、林業の現場において人材育成に携わる指導者を対象に、指導に必要な知識や技術を学び、育成に対する意識を高めることを通じて、将来の林業を担う人材の育成と定着を図ることを目的とする。

日 程

3日間：令和7年11月10日（月）、11日（火）、25日（火）

会 場

群馬会館（群馬県前橋市大手町2丁目1-1）

研修プログラム（案）

1日目	
・OJTについての基本的な内容を習得	1. 林業の現状・今後必要とされること
・人材育成計画の立て方を習得	2. 指導者の心得・人材育成計画・OJTの基礎知識
・習得した内容について演習	3. OJTの進め方・人材育成計画の設定
2日目	
・指導の基本的な内容について習得	1. 管理者4責任（講義）
・習得した内容について演習	2. ティーチングとコーチング
・指導者としての伝え方、話し方について	3. 指導者としての伝え方・話し方
・トレーニングを含めた研修	4. スキルマップ
3日目	
・研修で習得した内容について、総合的な演習と振り返り	1. 取組内容の発表
	2. スキルマップの共有
	3. 仲間に学ぶ（意見交換会）

林政情報

野生きのこの等的安全性確認について

今年も秋のきのこシーズンがやってきました。野生きのこの等々を採取して食べる際には、きのこの種類と放射性物質の影響等に注意する必要があります。なお、土地所有者の許可無く野生のきのこを採取した場合は、森林窃盗に該当する場合があります。

①きのこの種類

野生きのこには、多くの種類があります。この中には人体に有害な成分を含んでいる種類も数多く、強毒のきのこを食べて食中毒で死亡する例があります。

間違えやすい「毒きのこ御三家」は、クサウラベニタケ（イッポンシメジ科イッポンシメジ属）カキシメジ（キシメジ科キシメジ属）ツキヨタケ（キシメジ科ツキヨタケ属）です。確実に食用と判断できないきのこは、「採らない」、「食べない」、「人にあげない」ことです。未然に食中毒を防止してください。

群馬県林業試験場では、野生きのこの鑑定を実施しています。

住所 北群馬郡榛東村大字新井二九三五

電話 (027) 373-2300

※事前に連絡してから御来場ください。

②放射性物質の影響

東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質の影響により、「野生きのこ」は、一部の地域で出荷制限及び出荷自粛となっております。

野生きのこは放射性物質の影響を受けやすいといわれています。採取して食べる際には、食品の基準値である1キログラム当たり100ベクレルを超えるものを食べないようにご注意ください。なお、市町村によっては自家消費用の食品の検査を実施している場合がありますので、確認してください。



ツキヨタケ(毒)
(群馬県林業試験場提供)

③出荷・販売

以下の事項に注意してください。

- ・土地所有者等の許可を得て採取したきのこであること
 - ・食べられる種類であること
 - ・産地が出荷可能な地域であること
- 野生きのこの等々の出荷制限や自粛についての詳細は、県のホームページ等で確認してください。また、出荷制限や出荷自粛の地域では、対象のきのこ等が基準値以下でも販売できません。

- ・食品基準値以下であること

出荷可能な地域でも、全てのものが安全とは限らないので、検査で安全性を確認してください。

・出荷ラベルの表示は出荷可能な地域がわかるように、市町村名まで表示してください。



ツキヨタケ(毒・裏側)
(群馬県林業試験場提供)

林政情報

第七十八回群馬県植樹祭 の開催について

令和七年六月七日、「聞きたいな 森のささやき いつもまでも」をテーマに、第七十八回群馬県植樹祭が上野村乙父の「上野村運動公園」で開催されました。

当日は、力強い日差しが降り注ぎ、梅雨入りを感ぜさせないほどの晴天に恵まれました。県民の皆様をはじめ、森林・林業関係者、緑の少年団など約八百人が参加しました。

オープニングアトラクションでは地元の「十石太鼓保存会」による力強い和太鼓演奏と、上野村観光大使としても活躍されているアカペラユニット「XU XU（シュシュ）」と上野小学校緑の少年団によるコラボパフォーマンスが披露されました。披露された「あいうえ上野村」は、「XU XU」と上野小学校児童と一緒に作詞された楽曲で、上野村の名所がふんだんに盛り込まれた歌詞と元



緑のメッセージ

気いっぱいの振付けが観客を盛り上げました。式典では、今年度の緑化運動標語に採用された町田美桜莉さんと、同運動ポスターに採用された作者の市川紗妃さんが、山本知事から表彰状を授与されました。また、長年にわたり緑化活動推進へ貢献された生方盛夫さん、根岸輝治さん、上野小学校緑の少年団には、感謝状が贈呈されました。

さらに、上野小学校緑の少年団の伊原行将さんと浅川楓麒さんからは、「いつまでも『森のささやき』が聞こえるように私たちも自然を大切にしていきたいです。」と、素晴らしい緑のメッセージが発信されました。

式典後、主催者及び来賓者による記念植樹

が行われ、九十本のヤシオツツジが植えられました。また、参加者にはブルーベリーの苗木が配布されました。



知事による植樹

終了後には、上野村きのこセンター及び木質バイオマス発電施設の見学会が実施されました。参加者は、村の寒暖差を活かしたい栽培や、村内で調達した木質バイオマス資源を活用してエネルギーの地産地消を行うバイオマス発電施設を見学しました。

群馬県植樹祭は、戦争の荒廃した県土を緑に復興する郷土緑化運動の一環として、昭和二十一年に桐生市で第一回が開催されました。以来、郷土の緑の大切さを広く普及啓発する県民運動の中心的な行事として、県内各市町村で実施され、森林を守り、育み、活かすことの大切さを発信し続けています。

(林政課)

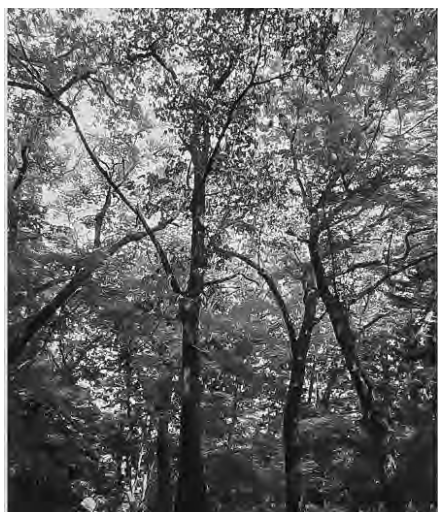


苗木の配布

各地の便り

渋川森林事務所管内におけるナラ枯れ被害について

管内では令和6年度以降、ナラ枯れ被害の報告が増えています。まず渋川市の水沢山の登山口付近においてナラ枯れらしき木が数本あるとの情報が一般の方から寄せられ、林業試験場と渋川市、当事務所で調査したところ、ミズナラの大径木が数本枯死していることを確認し、穿入孔の大きさや位置、フラスの状況からカシノナガキクイムシによるナラ枯れと特定されました。当該地域での枯損木は登山者や水沢観音に近いため倒木の危険性があること、また蔓延防止のため、渋川市は森林病虫害等防除事業による伐倒駆除及び粘着シートの設置を予定しています。



渋川市水沢山登山口付近のナラ枯れ被害木

また、渋川市の子持山でも山が赤くなっているとの通報が寄せられ、群馬森林管理署、

林業試験場、渋川市、当事務所で民有林と国有林の境界沿いを調査しました。ナラ枯れの被害は主に国有林側で多く発生していました



渋川市子持山のナラ枯れ被害状況

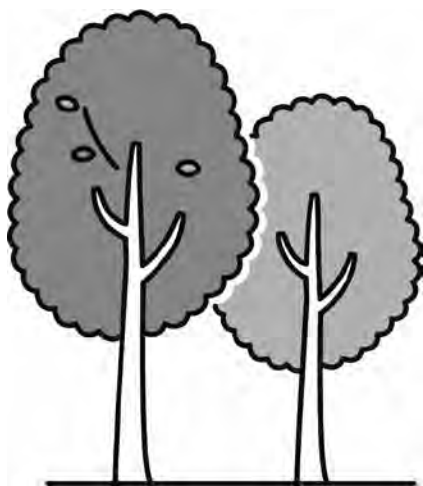
が、対岸の民有林側にも被害が確認されました。渋川市では、ほかに赤城自然園でもナラ枯れが発生し、同園が伐倒駆除を行いました。

また、前橋市でも、前橋市神沢の森の音羽倶楽部でナラ枯れらしき木があるとの通報を受けて、林政課、林業試験場、前橋市、当事務所で調査したところ、ナラ枯れと特定され、被害木は当倶楽部が伐倒駆除を行いました。前橋市では、その他に嶺公園や大室公園でもナラ枯れ被害が確認され、今年度の森林病虫害等防除事業で伐倒駆除を行いました。事業実施後に新たに枯損木が確認され、前橋市が秋駆除での伐倒駆除を検討しています。さらに、赤城山の鍋割山でも被害が拡大しているとの情報が寄せられており、管内全

体に広がってきている状況ですが、すべて駆除するのは難しい状況となっています。林業試験場からの情報では、管内で被害が発生させているカシノナガキクイムシは、遺伝子的に太平洋側の個体と一緒のものであることがわかりました。

カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害は、大径化したコナラ等が主に被害を受けており、被害を減らすには、伐って・使って・更新していくのが一番ですが、需要の増加を見込むのは難しいため、市町村と連携し、補助事業を活用した伐倒駆除や捕獲トラップ、粘着シート等で個体を捕殺するなど被害の蔓延防止に努めていきたいと考えています。

(渋川森林事務所通信員)



の便り

ほだ場診断の開催

原木しいたけのほだ場診断は、春に植菌したほだ木の菌の蔓延具合や水分状況等を観察し、ほだ場の湿度管理、通気性などの管理方法について生産者に助言するとともに、参加した生産者同士の情報交換を目的として実施しているものです。

当管内では例年、高崎地区きこの振興協議会がほだ場診断を開催しており、今年度は7月15日に開催されました。今回診断を行った3か所は、露地（畑）、林内、ビニールハウスと各々環境の異なるほだ場でした。



露地ほだ場

1箇所目のほだ場は露地（畑）であり、日差しによる乾燥に注意が必要ですが、被覆材に麦わらを活用することで乾燥を防いでいました。種菌メーカーからは、稲わらより断面の空隙が大きいため通気性がよく、温度管理に有効であるとの評価でした。

また当日は雨天でしたが、ほだ木があまり濡れていませんでした。水が入りにくいのが難点であるとのことでした。



林内ほだ場

2箇所目の林内のほだ場の生産者は仮伏せする前に浸水させ、散水はせず降雨のみで水分を確保

しているとのことでした。3箇所目のビニールハウスのほだ場は、暑さ対策に遮光ネットをかけ、スプリンクラーで散水していました。スプリンクラーは散水場所を細かく設定できない難点があるとのことでした。

最後の講評では、夏の暑さ対策が重要になってきている、今までのやり方では対応しきれないこともあるので、注意してほしいとのことでした。また、林内で生産する際は枝が折れてそこから直射日光が差し込むこともあるので注意してほしい、との助言もありました。

今後とも生産者との交流を深め、経営支援を進めていきたいと考えています。

（西部環境森林事務所通信員）

消防と連携した 林業現場安全点検

林業現場における労働災害は、他産業と比較して発生率が高く、特に死亡災害の割合が多いことが課題です。林業の作業を行う現場は市街地から遠く離れていることが多く、労働災害が発生した場合に救急車の到着までに時間を要すること、さらに被害が大きくなってしまふことになります。このため、作業現場における連絡体制や緊急時対応の整備はとても重要です。

藤岡森林事務所では、令和7年6月12日に、多野藤岡広域消防本部警防課の協力を得て、消防目線のアドバイスをいただきながら林業現場安全点検を実施しました。

多野東部森林組合の施業する搬出間伐現場に、2名の消防職員に同行いただき「いざという時どのような対応ができるか」という視点でお話を伺いながら、安全点検を実施しました。

現場へ到着してまず「この現場であれば、救急車はどこまで乗り入れできるか」の話題から、過去にあった災害事例、ヘリ救助の可能な状況、林業現場の電波が届かない実状：など、目の前の現場状況と照らしながら一気の話が広まりました。次に、現場に常備している救急用品の確認を行いました。現場

各地

職員の車両中にあるとの事で、いざ確認しようとする、車の使用者以外の者にはなかなか見つかることができません。わかりやすい配置や目印が必要であることを再確認し、また、中身については「こんな常備品があるとより良い」というアドバイスをいただきました。

他にも、119番通報において最も重要な位置情報には携帯電話の活用が有効であることや、ハチのアナフィラキシーショック時の身体の状態と現場対応の方法など、森林組合職



現場職員に話を聞きながら救急用品点検

員また事務所職員ともに、普段聞くことのできないお話を近い距離感で聞くことで、多くの知識を得ることができました。

また、消防職員の方に、林業現場の作業中の様子や、作業道の走行状況を知っていただいたことも、今後につながる良い情報共有になったと思います。

藤岡森林事務所では、今後も引き続き、労働安全の確保と啓発に努めていきたいと思えます。

(藤岡森林事務所通信員)



高性能林業機械の稼働状況を確認

第四三回親と子の木工広場の開催(富岡地区)

富岡市内の児童が夏休みに入った七月一日に富岡木材組合・富岡建築業組合主催の、親と子の木工広場が富岡市のもみじ平総合公園で開催されました。

会場では昨今の猛暑を考え、木工工作のキットを配布し、家庭で組み立てるドライブスルー方式と、現地で建築業組合の皆さんの指導のもと家族で木工工作を楽しむ、当日工作の二パターンで開催されました。富岡市内九校の参加者は、持ち帰り九六組、工作六九組、計一六五組で参加者の総数は計二八一名でした。



巣箱完成

参加者へは、木材組合から、林業・木材の役割が印字されたクリアファイル等を、当事務所からは工作の参考に、椅子、巣箱などの組立用のパンフレットを配布しました。

工作会場では、ノコ

の便り。。

ギリやヤスリ、キリ、カナヅチなどの道具が用意され、大工さん直々の指導もあり、母单位参加の親子も上手にノコギリやトンカチを活用していました。中には、ヤスリ掛けを行い、複数個のごみ箱や売り物にもなりそうなラックなどを、きれいに組み立てる親子もいました。

何人かの親子に感想を聞いてみましたが、「道具の使い方を親切に教えてもらって、楽しい経験ができた。」「木に触る機会はないので良い経験をさせてもらった。」「将来、大工になりたい。(男の子)」など、楽しい、良い経験ができたなどの、好意的な意見が多くありました。



巣箱完成

できた作品は、それぞれの家庭に持ち帰り、有意義に活用されることでしょう。この実体験は子供たちの

夏休みの思い出として心に刻まれ、きっと、十数年後に子供たちが、大人となり、地元木材活用の応援団の一人になってくれるでしょう。

(富岡森林事務所通信員)

親と子の木工広場の開催(吾妻地区)

7月26日、吾妻地区の夏の恒例行事である「親と子の木工広場」が吾妻木材組合、吾妻郡林業振興協会、吾妻環境森林事務所の三団体の共催により開催されました。

真夏の暑い中での開催でしたが、会場の中之条町木材活用センターには、郡内すべての町村から、小学生と保護者を中心に計81名、29組集まり、東吾妻町職工組合の大工さんに



会場全景

よる板の切断等の補助や組立の指導を受けながら木工工作に取り組みました。

本棚やごみ箱といった木工工作の定番を作る家族が多い中で、テーブルや椅子、大きな棚などの大作に挑戦した方もおり、また、小さな木箱や人形のベッドなど夢のある作品を作る低学年のお子さんなど、参加者が思い思いの作品を完成させました。

終了後、希望者には吾妻木材組合による木材活用センターの製材施設の見学会も実施されました。



テーブルに挑戦

各地



本棚ができました

参加者されたみなさんには、木工工作を通じてものづくりの楽しさ、木材の持つ美しさや温かみなどを感じていただけたのではないかと思います。

「楽しかった。また参加したい。」との声をいただき、関係者一同、今後も地元の子供達に喜んでもらえるような行事にしていきたいと思いました。

(吾妻環境森林事務所通信員)

高校生向け『チェンソー技術体験会』を実施

令和7年8月、利根実業高校の生徒を対象に、チェンソー作業技術体験会を実施しました。

当事務所では同校に対して令和4年度から林業の担い手育成を目的に、森林・林業の講習会の開催や林業・木材に関わる様々な情報提供を行ってきました。

今年度は、林業への就労意欲向上を図るため、より実践的な学習・体験を行いたいという学校側の要望を受け、5月に刈払機及びチェンソーの取り扱いについて座学を行い、

今回、農

林大学校

を会場に

チェン

ソー作業

の技術体

験会を実

施しまし

た。

チェン

ソーの整

備や点検

方法、基

本操作な



どについてチェンソーを実際に触りながら学習を進め、班別に分け、一人ずつ丸太を上下に伐る玉切り作業や、垂直に立てた丸太に受け口・追い口を作る作業を行いました。

水平や斜めに切ることは難しく、講師やグループの仲間とともに一つ一つの作業を確認しながら全員が実習に取り組みました。

生徒からは「受け口の伐り方が難しかった。」「もっと正確に伐る方法を知りたい。」「実際に木を伐ってみたい。」「もっと正確に伐る方法を知りたい。」などの声があがり、学校側からも来年度も実施してほしいと要望されていることから、今回の結果や課題などを整理し、継続的に取り組める方法を検討していく予定です。

(利根沼田環境森林事務所通信員)



各地の便り

令和7年度関東・山梨ブロック 林業グループコンクール

令和7年7月17日に茨城県水戸市の水戸市民会館にて関東・山梨ブロック林業グループコンクールが開催されました。群馬県のエグゼクティブからは黒川森林文化研究会が県を代表して成果発表をしました。

林研グループは、林業技術の向上・林業経営の発展のために、自主的な活動を行って地域の振興・活性化を図っているグループです。全国におよそ880グループ、14、500人の会員がいます。林業グループコンクールはそんな彼らを全国的に取り上げ、その活動・研究を発表・討議することによって、林業グループ相互の発展・資質の向上を図っています。

黒川森林文化研究会（以下、黒川）は昭和35年に発足した沢入林業研究会が結成50周年を迎えた節目に現在の名称に変更しました。今年で65年目となり、現在20名の会員で活動しています。

今回の発表は、黒川が2022年から現在において取り組んでいる3つの活動を紹介するものでした。

一つ目の活動内容は、地域おこし協力隊の受け入れです。みどり市と黒川で協力隊の受け入れの協定を結び、多くの隊員たちが地域

に根付き、ここで培った経験と知識が地元の森林・林業の力となっています。

二つ目は、木の駅プロジェクトです。林野庁が支援する「地域内エコシステム」を活用し、木質バイオマスの地産地消に取り組みんでいます。みどり市と構想段階から仕組みづくりに関わっており、さらには社会福祉法人とも連携し、林福連携の事業となっています。

最後は林業体験イベントです。今年で7年目を迎えるこのイベントは、例年、15組30名程度の参加者があります。イベントを通じて、子どもたちは自然と触れ合い、林業を肌で体験してもらうことで、林業に興味・関心をもってもらえるような内容になっています。今回のコンクールでは神奈川県と山梨県を除いた関東一都五県から代表の林研グループが発表を行いました。そして、厳正な審査の結果、黒川は2位の成績を収めました。群馬県の代表がその活動を高く評価され、地域の森林・林業の発展に貢献していることが広く知ってもらえる機会となり、大変うれしく思います。

（桐生森林事務所通信員）



表彰式後の集合写真



黒川森林文化研究会の発表の様子

森の談話室

地域木材産業を担う若手経営者

「新加工機導入で高付加価値化」

榛名木材工業株式会社 代表取締役

萩原 佑比さん



萩原 佑比 社長

高崎市榛名町で国産木材を中心とした高品質な造作用集成材の製造・販売を行う老舗企業である榛名木材工業株式会社の三代目代表取締役の萩原佑比さんにお話を伺いました。

榛名木材工業は、創業当時から社員はもろんのこと取引会社との繋がりも大切に良い時も悪い時も共に経験し、共に成長していきたいという思いから『共存共栄』を掲げ仕事に励むとともに、地元の森林資源を活かし、持続可能な経営と丁寧なもののづくりを大切にしてきました。

現在の主力商品は、住宅用内装材、家具用

木材などがあり、県内では唯一の集成材JASの認定工場です。

萩原佑比社長は、平成31年4月から専務取締役、令和5年10月から現職に就任しました。経営のキーワードは「高付加価値化」と「差別化」、「我が社は、決して大きい会社ではないので、周りと同じことをしていてもダメだ」という思いから、専務時代から様々なものに取り組んできたそうです。

その代表例が全国各地の地場産材を使った造作用集成材の製造です。公共事業の仕事の際、JAS認証工場と地場産材での製造が可能なので、県内に限らず全国の物件にて対応しています。この狙いは的中しており、工場を見学させていただきましたが、木材倉庫には北海道から始まり山形県、東京都、長野県、愛知県などの木が並んでおり、全国から多くの注文がきているのがわかりました。

社長に就任してからは、「高付加価値化」をさらに加速され、昨年度は、林業・木材産業改善資金貸付事業を活用して特殊な加工が出来るCNC5軸加工機を導入しました。この加工機は、精密な木材加工を実現する革新的な機器で、特に複雑な形状の加工に強みを持ち手作業では難しい精度と一貫性をもった加工が可能です。これにより、従来の部材提供からより付加価値の高い特殊加工品として販売を進めて行く予定ですが、現段階では導

入からの期間はまだまだ浅く、本格稼働に向けて準備中だそうです。

最後にお忙しいところ取材に御協力くださいました萩原佑比社長を始め、関係者の皆様に感謝するとともにこの地域の木材産業がますます発展することをお祈り申し上げます。

（西部環境森林事務所通信員）



昨年度導入のCNC5軸加工機

ムキタケ現地調査～品種登録をめざして～



図1 群馬GPS-31号の子実体

林業試験場きこの係では、令和元～5年度にかけて「群馬県産オリジナルきのこの栽培実用化」という課題で、ムキタケというきのこの研究を行いました。その内容は2022年夏の「林業ぐんま」においてご紹介しています。その後、優良なムキタケの選抜試験をさらにすすめ、最終的に収量、栽培日数、形状等の面で優良な3株のムキタケを選抜しました。また、それらについて味覚センサーという機器を用いて味覚のデータも分析しました。その結果、味覚の面で旨味が多い等優位性の認められた1株を品種登録に出願しました（令和6年3月18日）。出願名は「群馬GPS-31号」です（図1）。

品種登録の出願は、出願品種と比較対象となる対照品種について、菌糸や子実体に関する莫大なデータを測定し、とりまとめるという非常に労力のかかる仕事です。

出願の受理後は、現地調査が実施されました。令和7年2月19～20日の2日間にわたり、農林水産省等からの審査官が来訪し、行われました。

調査日に合わせて、出願品種と対照品種3種の子実体及び菌糸のシャーレを用意する必要がありますことから、綿密な計画を立てて準備をしました。

調査当日は、審査基準をもとに各品種の菌糸密度や色、子実体の形状、各部位の長さなどを調査しました。出願品種と対照品種を比較して、こういった違いがあるか、特性にばらつきがないか、といった点や、出願データと現地調査のデータに違いがないかといった点が確認されました。現在は審査の結果待ちです。

令和6年度からは、後継の課題において「群馬GPS-31号」のより良い栽培方法を検討中です。今後、品種登録となったあかつきには、栽培技術の検討を重ね、生産者への普及促進の一助としたいと思います。



図3 現地調査風景(傘の色の調査)



図2 群馬GPS-31号と対照品種

トピックス

ぐんま『夏』の 木育広場を開催

群馬県林業振興課では、県産木材利用推進月間の8月に合わせ、木とふれあい、身近に使う中で、人と木と森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むことを目的とした木育広場を開催しており、今年度で3回目の開催となりました。

今年度の木育広場は、令和7年8月9日（土）～10日（日）の2日間、県庁舎1階県民ホールで開催しました。今回は、SNSを活用してイベントの周知を行なったことや、10日は天候が悪く屋内での遊びを求める来場者が多かったこともあり、昨年の約2倍にあたる497人の参加がありました。

会場では、本格的な木製釣り竿を使った魚釣り、木製ボールプール、おままごとセットや昨年度寄贈頂いた木製キッチンなどの木製おもちゃ体験コーナー、木っ端（製材時に発生する端材）や松ぼっくり、どんぐり等を使って参加者が木工工作を体験できる木工コーナー、ウッドスタート宣言のPRコーナーを設置しました。来場者はお気に入りの木製おもちゃで何度も遊んだり、世界に一つだけの作品作りに夢中になったりと、木の魅力を存分に体感していました。

当日はスタッフとして、県の職員に加え、

群馬県木育インストラクター9名にもご協力いただき、子ども達に木材とふれあう楽しさや心地よさをより深く伝えることができました。ご参加いただいたインストラクターの方に、この場をお借りして御礼を申し上げます。

木材とのふれあいは、単なる素材との接触ではなく、自然とのつながりを感じる貴重な体験でもあります。今後も、木材や木製品に直接触れて、その魅力を体感できる機会を増やし、ぐんまの木製品の魅力を発信するとともに「ぐんまの木育」を推進していきたいと思っています。



木のだまごプールからはヒノキの香



工作に夢中な兄妹



木製おもちゃでおままごと



総合建設業

追川工業株式会社

代表取締役 追川悦子

〒370 3402 群馬県高崎市倉渕町三ノ倉2016
TEL 027-378-4170 FAX 027-378-2320
E-mail oikawa-k@cello.ocn.ne.jp

総合建設業

安全と確かな技術



角屋工業株式会社

代表取締役 飯島 千明

沼田市栄町100-1

☎ (0278) 23-5321 (代) FAX (0278) 24-1097

ぐんまの木を使うことが、ぐんまの森林を守ります

10月は木材利用促進月間です！

木材の可能性を拓く、ぐんま優良木材、JAS構造材をご使用ください！



一般社団法人群馬県木材組合連合会

〒379-2131 前橋市西善町524-1

電話：027-266-8220

<http://www.gunma-wood.com/>

～ 未来の森と緑を育む、技術と情熱 ～

一般財団法人 群馬県森林・緑整備基金

〒370-3503 群馬県北群馬郡榛東村大字新井2935

群馬県林業試験場 別館内

TEL 027-386-5901 FAX 027-386-5902